

こころん だより

2019
秋号
Vol. 10



こころん



特集1

災害時の要配慮者対策について
～いのちと人権を守るために～

文：高知県地域福祉政策課

特集2

こころんの
社会見学

暮らしも心も、バリアフリーに！
～障害があっても、高齢でも、自分らしく生きる～



災害時の要配慮者対策について

～いのちと人権を守るために～

文：高知県 地域福祉部 地域福祉政策課

災害が起こった時、特に配慮が必要な方がいます

平成23年3月に発生した東日本大震災では、避難生活の中で、ストレスや不衛生な環境による体調の悪化、エコノミークラス症候群などにより死亡する、いわゆる「災害関連死」と認定された方が3,700人あまりにのぼりました。また、平成28年4月に発生した熊本地震では、揺れによる死亡者数のおよそ4倍の方が災害関連死とされています。

災害が起こった直後は、周りも自分も混乱して大変な状況になることが予想され、通常以上に配慮が必要な場面が発生します。高齢者や障害者、乳幼児など災害時に配慮が必要な方「災害時要配慮者」は、特にそのような傾向にあります。

災害時要配慮者とは？

災害時に配慮が必要な人のことで、次のような方が考えられます。

高齢者

障害者

難病の人

乳幼児

妊産婦

外国人

など

どんなことで困るのか？

災害時要配慮者にはどのような困難さがあるのでしょうか？ 例えば、次のようなことが考えられます。

● 高齢者

- ・災害発生時に素早い行動が難しい。
- ・和式トイレの利用が難しいため、水分の摂取を控え、体調を崩す。

● 障害者

- ・警報などの音声がわからない。(聴覚障害)
- ・文字や絵から情報を得ることができない。(視覚障害)

● 難病の人

- ・停電すると医療機器が使えない。
- ・薬の確保が難しい。

● 乳幼児

- ・生活環境の変化により精神的、身体的症状が現れやすい。
- ・状況を理解して判断することが難しい。

● 妊産婦

- ・着替えや授乳の場所が少ない。
- ・素早く避難することが難しい。

● 外国人

- ・日本語での情報だとわからない。

地域みんなで逃げて、みんなで助かるためには、普段から災害時要配慮者の事情を考慮しながら、日頃から地域の皆さんと一緒にどのように対応すべきかを考えておくことが大切です。

「避難する」ことへの取り組み

今後30年以内に、70%から80%の確率で発生すると言われている南海トラフ地震により、高知県は大きな被害を受けることが想定されています。

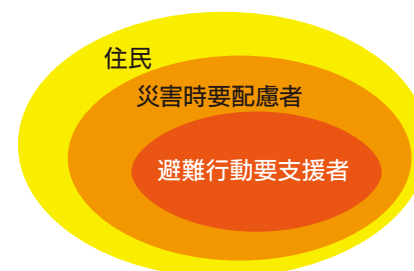
県では、南海トラフ地震に備えるため、行政、事業者、県民の皆様がそれぞれの立場で実施すべき具体的な取り組みをまとめた「南海トラフ地震対策行動計画」を策定し、ハード、ソフトの両面から様々な対策を進めています。本年度から始まった第4期の行動計画では、災害時要配慮者対策を重点課題の一つに位置づけ、取り組みを充実・強化しています。

その取り組みの一環として、市町村と連携し、災害発生時に一人では避難することが困難な方、いわゆる「避難行動要支援者」の名簿を作成し、本人の同意を得たうえで警察や消防といった応急救助機関のほか、自主防災組織や民生委員など、避難を支援していただく方々に名簿情報を提供して、お一人お一人の状態に配慮した避難支援のための個別計画づくりを進めています。

詳しくは、「災害時要配慮者の避難支援の手引き」をご覧ください。

避難行動要支援者とは？

災害時要配慮者のうち、災害時に一人では避難することが困難で、避難のために特に支援が必要な方です。



「避難所生活」にも備える

災害時に配慮が必要な方も安心して避難所で生活することができるよう、避難所ごとに地域の方が中心となって運営できるマニュアルづくりが進められています。

今後、災害時であっても避難された方の状態に配慮した対応ができるマニュアルへとバージョンアップするとともに、訓練を通して実効性を高めていくこととしています。

自然災害の発生を止めることはできませんが、日頃からお互いに思い合い、支え合うことで、災害時においても大切な命や人権が守られていくことになります。

誰もが安心して暮らせる地域づくりにご協力をお願いします。

もっと詳しく知りたい方へ



「災害時要配慮者の避難支援の手引き
～みんなで逃げる みんなで助かる～」

平成26年3月発行

「災害時要配慮者の避難支援の手引き」を下記の高知県地域福祉政策課のページに掲載していますので参照ください。

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/060101/youhairyo.html>

お問合せは

高知県地域福祉政策課 ☎088-823-9089

HP <http://pref.kochi.lg.jp/soshiki/060101>

こころん 社会兜学

暮らしも心も、バリアフリーに！ ～障害があっても、高齢でも、自分らしく生きる～

障害があっても高齢になっても、誰もが望む場所に出かけられる“移動の権利”。それを保障する仕組みが、「タウン(=まち)モビリティ(=移動性)」です。高知市中心商店街でこの活動に取り組む「タウンモビリティステーション ふくねこ」をこころんが訪ね、お話を聞いてきました！



◀ お話してくれた人
NPO法人 福祉住環境ネットワークこうち
理事長 笹岡 和泉 さん



▲「移動サポート」でボランティアさんと商店街を楽しむ利用者
◀ 月2回開催の「マチネコ」は、いろんな人が集まる交流の場！

誰もが、自分の行きたい場所に 自由に出かけられるように

タウンモビリティに取り組むきっかけとなったのは、2010年の「ひとまちふれあいフェスタ」です。日頃あまり外に出て来られない高齢者や障害がある方に商店街を楽しんでもらおうとイベントを行い、そこから「どうしたらもっと街に出てきてもらえるだろう？」ということを考えはじめました。

翌2011年、先駆的な取り組みをしていた福岡県久留米市を視察し、学んできたことをベースに高知初のタウンモビリティを開催。実績を重ねながら、2015年4月より週4日、京町アーケード内に「タウンモビリティステーション ふくねこ」を開設し、活動に取り組んでいます。

移動支援から、観光案内まで

タウンモビリティの役割は大きく三つあります。

一つ目は「移動のサポート」。商店街を訪れる買物客や観光客に車椅子やベビーカーを無料で貸し出したり、身体やコミュニケーションが不自由な方に付き添いボランティア(1回500円)を行ったりしています。

二つ目は「街のバリアフリー情報の提供」。車椅子やベビーカーでも入れるトイレや飲食店がどこにあるとか、視覚や聴覚に障害があっても楽しめる観光情報などを、障害当事者も関わって作成したバリアフリーマップなどを使ってお伝えしています。



発見こころん
車椅子が人力車に?!
観光から災害時まで
活躍する支援具



▲当事者が作成に協力した「高知市お城下バリアフリーマップ」(高知市商工振興課)

◀ 貸出用の車いすやベビーカー



▲ 開所記念イベントで仲間たちと



◀「障害者サポート研修」に参加する学生



みんなが暮らしやすい
街になるために必要なこと、
こころんも考えてみるよ!

学びの場、集う場としての役割も

三つ目は「人と人の交流」です。ステーションでは「若年性認知症カフェ」や「手話カフェ」、「童謡教室」、「島ぞうりアート教室」などを定期的に開催。ここでいろいろな人と関わり話をすることでどんどん前向きになっていく障害当事者の方や、学校では学べないことを経験し視野が広がったというボランティアの学生さんなどを見ていると、人との出会いや交流がみんなの元気や成長の源になっていることを実感します。

またそうした中、障害があっても自分のできることで他の人の役に立ちたいという方も増えてきて、お互い様の精神で助け合うのが最近のステーションの日常風景にもなっています。

“自分らしく”が、あたりまえの社会に

もともと私たちのNPOは、高齢者や障害者のための福祉住環境整備から活動を開始しました。けれど家の中のバリアフリー化だけで、人は幸せに暮らせるわけではありません。お友達と喫茶店に行っておしゃべりをしたい、バスや電車に乗って買い物に出かけたい、そういうことも叶えられて初めて、自分らしく暮らし続けることができます。

どんな重い障害があっても高齢になっても、やりたいことを諦めず自分らしく暮らしていける——それがあたりまえの街や社会になるよう、これからも活動していきたいと思っています。

JOIN マチネコに遊びに来ませんか?

興味のある方は、コミュニティカフェ「マチネコ」にぜひ一度、遊びに来てください。

▶ 障害などの当事者やご家族の方へ

身体、知的、精神、発達障害や、脳卒中、ガン、認知症、希少難病などいろんな“仲間”がいます。年齢も20代から80代まで幅広いですよ!

▶ ボランティアに興味のある方へ

タウンモビリティは、多くの登録ボランティアによって支えられています。メンバーは、福祉・介護の専門職、福祉系専門学校生、まちづくりに興味のある大学生、社会人など様々です。

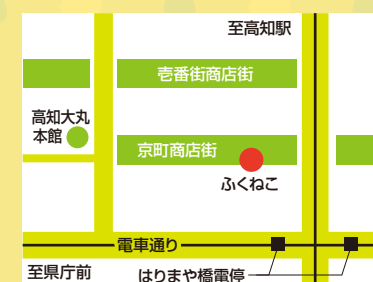
詳しくはこちら



タウンモビリティステーション ふくねこ

住所: 高知市はりまや町1-1-24 (京町アーケード内)
運営日時: 毎週木曜～日曜 11時～16時
TEL: 080-3923-2939
E-mail: townmobility-kochi@softbank.ne.jp

高知市中心商店街における移動支援やバリアフリー情報提供の拠点。「NPO法人 福祉住環境ネットワークこうち」が中心となり運営している。



啓発事業

第46回「部落差別をなくする運動」強調旬間啓発事業を行いました

実施日 令和元年7月11日(木)14時～16時 / 参加者:210名
講演 「同和問題の今、そしてこれから～35年間の取材を通して考えること～」
講師 馬場 周一郎 氏(ジャーナリスト、元西日本新聞記者)
会場 高知会館(白鳳)



講演は、①同和問題のこれまで ②同和問題の今 ③これから～解決への課題と展望～の3つの視点から、「被差別部落の戦後の人口推移」などのデータを交えながら、対策が進む中で「部落差別は見えにくくなった」とし、今後の課題として、法や条例は万能ではなく、「差別がいかに不合理で愚かなことか」と考える個人の内面の成熟が決め手となること、「差別はいけない」の説得型から納得型への脱却が必要である、と話されました。

アンケートより

- 講師の長年に渡る取材活動によるお話は、今後の差別解消に向けた視点の大事なところを示していただいた。教育現場にも大きく活用すべきと学ぶことができた。
- ネガティブ部分よりポジティブ部分が良かった。
- 同和問題の現状、今までであったことについて知ることができ、勉強になった。他の人権問題に関する講演にも参加してみたい。

第1回 ハートフルセミナー

「私たちはなぜ生まれてきたのか？ 小説『あん』でハンセン病快復者の人生を描いた意味」
ドリアン助川さんによる講演会を行いました

実施日 令和元年7月21日(日)14時～16時 / 参加者:139名
内容 講演会「私たちはなぜ生まれてきたのか？ 小説『あん』でハンセン病快復者の人生を描いた意味」
講師 ドリアン助川さん(作家・詩の道化師)
会場 高知県立人権啓発センター6階ホール



世界中で13言語に翻訳されている小説『あん』の著者であり、詩人、朗読家などさまざまなジャンルで活躍されるドリアン助川さん。当日は悪天候の中、大勢の参加者で会場は満員となりました。講演では、小説『あん』を書くまでの苦悩と出版されるまでの長い道のり、ハンセン病患者やハンセン病快復者に対する偏見の歴史について、そして最後に『あん』の一部を朗読され、「私たちはこの世を観るために、聞くために生まれてきた」「人はみな等しく、すべての人に生まれてきた意味がある」と、熱く伝えてくださいました。

■ 小説『あん』・映画『あん』(DVD)は、「じんけんライブラリー」で無料貸出をしています。ぜひご活用ください。



ふりかえりシートより

- 生きることの大切さ、意味をあらためて深く感じることができました。力強いドリアン助川さんの言葉が心に響いてきました。
- この世に生きていることの意味を考える、とても深いお話でした。子どもにも聞かせたかったです。
- 世の中が良い悪いで分断されつつある中、「あん」が世界中から受け入れられている現実には希望がもてました。
- 世の中の熱い思いが伝わってきた。

人権ふれあい支援事業

令和元年度人権ふれあい支援事業が決定しました

当センターでは、高知県内のNPOやボランティア団体及び民間の団体等(PTA、町内会、老人クラブなど地域で活動している団体や企業、事業所を含む)が人権に関する啓発や研修の事業を行う場合、その経費の一部を支援しています。今年度は14団体から申請があり、審査会を経て、10団体の事業への支援が決定しました。(支援決定総額120万円)支援団体はHPに掲載しています。

10月27日(日)14:00～16:00 ※受付13:30～

令和元年度 人権啓発研修 第2回ハートフルセミナー
講演会「LGBTのことそして人権
～誰もが生きやすい社会へ～」

参加費無料
定員100名(予約優先)

講師 南 和行 氏
(弁護士:なんもり法律事務所)

会場 高知県立人権啓発センター6階ホール

講師紹介 1976年大阪市生まれ。京都大学・同大学院を経て、住宅建材メーカーに就職。その後、学生時代に知り合った恋人の吉田と共に弁護士を目指し、2008年司法試験合格。2009年に弁護士登録(大阪弁護士会)。2011年に吉田と結婚式を挙げ、2013年に同性カップルの弁護士による法律事務所「なんもり法律事務所」を二人で開設。一般民事ほか離婚・相続・遺言・養子縁組など家族の問題を多く取り扱う。性的マイノリティの差別の案件、戸籍の性別の案件、民法772条による無戸籍の案件にも積極的に取り組む。

夫(ふ)で弁護士として活躍する2人の3年間を追ったドキュメンタリー映画「愛と法」▶
(監督:戸田ひかる)。2018年から全国で好評ロードショー。



12月8日(日)9:30～15:30(雨天決行)

「第23回 じんけんふれあいフェスタ」

会場 高知市中央公園
入場無料

イベント内容

聴導犬デモンストレーションや「こころん」ほか人権イメージキャラクターも出演する「子どもじんけんミュージカル」、60代と70代を中心に活動するフラダンスサークル「ルアナと楽しい仲間たち」の「フラダンスショー」ほか、楽しいイベントが満載。車いすのアーティスト「佐野有美トーク&ライブ」もお楽しみに!

じんけん
ふれあい
フェスタ

毎年12月10日の世界人権デーを最終日とする1週間は、国によって人権週間と定められ、全国的に人権尊重思想の普及高揚のための啓発活動が展開されています。本県においても、その人権週間の周知と「明るく、楽しい」催しを通じて、人と人とのつながりや、人を思う心を大切にすることをきっかけになればという思いで、「じんけんふれあいフェスタ」を開催しています。

お申し込み・お問い合わせは ▶▶▶ 公益財団法人 高知県人権啓発センター ☎088-821-4681

じんけんライブラリー情報

「じんけんライブラリー検索」はこちら
所蔵図書・DVDの検索ができます。ぜひご利用ください。
<http://www.kochi-jinken.or.jp/lib/>



新着DVDリスト

★2018年10月以降の購入分より

タイトル	テーマ	時間
公正な採用選考が企業にもたらすもの	人権全般	25分
多様性入門	人権全般	27分
障害のある人と人権 誰もが住みよい社会をつくるために	障害者	32分
共に働くための合理的配慮(ともに生きる人権シリーズ)	障害者	33分
STOP!デートDV	子ども・女性	22分
被災地からのメッセージ 命をつなぐ絆のカー	災害と人権	25分
トランスジェンダー ～末悠・彩・歩夢～(LGBTシリーズ)	性的指向・性自認	27分
ハラスメントを生まないコミュニケーショングレーゾーン事例から考える	ハラスメント	25分
パワハラを学ぶ～基礎から防止対策まで～	ハラスメント	20分
メンタルヘルス～セルフケア&ラインケア～	ハラスメント	21分
ハラスメント・しない、させないための双方向コミュニケーション	ハラスメント	26分
無意識の偏見が招くパワーハラスメント	ハラスメント	26分
アゲハがとんだ ー1945・3・10東京大空襲ー ※アニメ	平和学習	20分

Pick Up!!



ハラスメント・しない、させないための
双方向コミュニケーション

(東映株式会社教育映像部 2019年制作作品)

人は、一人一人感じ方や考え方が違います。ハラスメントを防止するためには、双方向のコミュニケーションが大切です。ハラスメントをしないためには、相手の立場を尊重した上で自分の意思をきちんと伝えることが大切ですが、ハラスメントをさせないコミュニケーションの可能性もこの作品では描いています。

人権啓発番組「心呼吸しよう」を放送！

高知さんさんテレビで、人権に関する番組(5分)を放送します。

- 第1回／9月15日(日) 17:25～ (再放送 10月12日(土) 10:25～)
テーマ「性的指向・性自認」 出演：暁プロジェクト代表 大久保暁さん
- 第2回／11月17日(日) 17:25～ (再放送 12月14日(土) 10:25～)
テーマ「外国人」 出演：高知日本語サロン 尾中美代子さん
- 第3回／令和2年1月19日(日) 17:25～ (再放送 2月8日(土) 10:25～)
テーマ「災害と人権」 出演：NPO高知市民会議理事 山崎水紀夫さん



ご利用案内

出張
します人権研修のための
出前講座

講師派遣料無料

自治体や地域住民・企業・団体などが実施する様々な研修や学習の場に、講師を派遣します。
多彩なテーマやプログラムがあります。

貸出
します「こころん」の
着ぐるみ紙芝居

利用無料

人権について楽しく学び、身近に考えてもらえることを願い、こころんの着ぐるみやオリジナル紙芝居とパペットのセット貸出を行なっています。

オリジナル紙芝居+パペット ▶



6F

ホール (収容人員 270人 机併用の場合は180人)

講演会、研修等のイベントにご利用ください。

基本使用料(平日)			時間外使用料
午前	午後	全日	平日時間外、土・日・祝祭日
9:00～12:00	13:00～17:00	9:00～17:00	1時間
8,490円	11,360円	17,880円	4,250円

● 冷暖房使用料 … 1時間 / 610円

● 時間区分には、準備・片付けに要する時間を含みます。

※ 上記は2019年9月末日までの利用料金です。新料金については、HPをご覧くださいか、お問い合わせください。



6F ホール

5F

じんけんライブラリー (利用無料)

人権に関する図書、視聴覚教材、パネルの貸出を無料で行っています。
ホームページ内の「じんけんライブラリー検索」では人権課題別の蔵書検索もできます。

利用時間 月曜日～金曜日(祝祭日・年末年始を除く) 9:00～17:00

利用方法 ● 初回ご利用の際に、利用カードを発行します。
● 直接ご来館できない場合は、送付もいたします。(送料は利用者負担)

	図書	ビデオ・DVD	パネル	団体図書
貸出限度	5冊以内	2本以内	3セット以内	50冊以内
貸出期間	2週間以内	2週間以内	1ヵ月以内	1ヵ月以内



団体図書貸出について

小・中学校、高等学校ほか、地域や団体、イベント開催などにあわせて、さまざまな人権問題についての図書の団体貸出を行っています。ご希望の図書について、お気軽にご相談ください。



5F じんけんライブラリー

詳しい情報は
ホームページを
ご覧ください!



kochi-jinken.or.jp



こころん

4F

視聴覚室 (利用無料/収容人員 48人)

人権に関する研修等のにのみ使用できます。



公益財団法人

高知県人権啓発センター

ホームページ

www.kochi-jinken.or.jp

【事務局】〒780-0870 高知県高知市本町4丁目1番37号 高知県立人権啓発センター 5階
TEL : 088-821-4681 / FAX : 088-821-4440 / E-Mail : center@kochi-jinken.or.jp

「こころん」は高知県人権啓発センターのマスコットキャラクターです

